

# NTT東西殿のコロケーション 及び PPPoE・IPoEに関する提案について

一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会

副会長兼専務理事

立石 聡明

# コロケーションについて

- 6ヶ月前ルールが撤廃されて、撤去時までの利用料金を支払えばよい
  - このことについては、大いに評価
- ただし、POI調査回答時から料金が発生
  - 後ろで取っていた利用料を前で取るルールに
  - これも全額負担ではなく、占有対象物に限定して頂いたが
    - 例えば、整流器の工事などがあると実際に運用するまで8ヶ月程度かかることがある
    - 運用開始まで、何ヶ月かかっても東西殿のリスクが殆どない
  - NTT東西殿のインセンティブが働くような仕組みを期待する

# PPPoEについて

- 全額負担であることを前提に増設基準のない網終端装置の増設が可能となったこと及び1社複数の識別子対応を検討していただいていることは評価
- 下記2点についても、継続協議をお願いしたい
- 増設基準の「引き下げ」あるいは「基準そのものの見直し」
  - フレッツ光ネクストがサービスを開始してからもインターネットのトラフィック状況は大きく変化
  - 当面の措置として基準セッション数のさらなる引き下げを要望
  - 「セッション」基準による増設ではなく「トラフィック」基準による増設へと基準を変更するべきではないか
- ユーザに回線の速度低下を説明する際、網終端装置の輻輳がISP原因だけにならないように考慮していただきたい

# IPoEについて現状の問題点

- 様々なISPがIPoEを利用できる環境となっていない
  - 特に中小ISPにとって利用容量に対して初期導入コストが非常に高い
  - 接続の環境が整うことでローミングを含めた様々な接続形態をISPが自由に選択できることが公正競争の観点からも重要

# IPoE接続についての要望

- 3社の制限が16社になったこと、また、接続POIがブロック単位で出来るようになったことは評価できる。
  - 今後も需要の増加に応じて、IPoE接続出来る数を増加して頂きたい
  - ブロックでの接続も、全ブロックPOIとの接続を条件としていることの緩和
  - 同様に各県単位のPOIについては、需要があれば利用できるようにして頂きたい(東京、大阪でのみの接続や高額な接続料金などの緩和)
- 今後も下記の点について継続協議をお願いしたい
- IPoE接続するISPの数を増やすために、さらなる情報公開を期待する
  - 公開されていなかったために検討すら出来ないISPが多かった
- 実際に当初のVNEの一部が他のISPへ卸提供を始めたのは最近であり、この間、IPoEを利用できなかったISPの不利益は非常に大きいので、VNE間の競争促進をするために制度的検討が必要ではないか

# 中期的な課題

- 毎年1.5倍以上で増えるトラフィックに、現在の環境では対応しきれないのではないか？
- 今後、疲弊する地方の存続や地方創生を考えたデータセンター移転等の政策等を促進するためには、データの地産地消等を考慮したネットワーク作りが必須
  - また、大規模災害の冗長性確保などを考えた場合、東京大阪などの大都市だけではリスク回避できない
- 地方でのICT利活用促進において、高スキルなネットワーク技術者の存在は必要不可欠である。しかし現在の各県単位POIが可能なPPPoE接続から都市部のみでの接続となるIPoE接続への移行は、地方のICT人材が流出し、地方でのICT利活用を支える人的基盤が毀損される



**政府、インフラ事業者、ISP、コンテンツ事業者等の関係者で幅広く議論するべき時期が来ているのではないか**